

乙 頁

おとさだ

第47号 通巻9巻第6号

1989年11月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター

☎ 0775-85-4397

〒 524-02

守山市服部町2250番地

☆ はじめに ☆

11月は文化財保護強調月間です。各地で特別展や講演会が開催されると思いますが、今回の乙頁では近隣の市町で行なわれます行事と、発掘調査だよりについて掲載します。



< 調査終了 >

1 川田遺跡

5月から発掘を行っていましたが川田遺跡の調査は、10月末で終了しました。今回の調査では前回(63年度)、前々回(61~62年度)の調査に引き続いて鎌倉時代の屋敷跡が見つかりました。川田町周辺は古くは弥生時代から人間の歴史が始まりますが、人の手による本格的な開発は鎌倉時代以後であろうと考えられます。今回見つかった建物や溝の方向は「条里」と呼ばれる古代の土地区画にはほぼあっていて、この土地区画に沿って、水田や畑を開発していたことがわかりました。

2 寺中遺跡

守山市地域総合センター駐車場の造成工事に先立ち、外周の擁壁部分の調査を実施しました。幅約2m、延長90mを対象として行い、北側及び西側の区域で弥生時代中期の溝跡を検出しました。1条は東西方向の溝で、幅約3m、深さ1.2mあり、その中から多量の土器と石斧が出土しています。もう1条は方向が不明瞭ですが、先の1条の東側にあって、これも幅約4m、深さ1.5mもある大きな溝で、やはり多量の土器と石斧、石包丁が出土しました。これまでの調査から、センター前のグラウンドを境に西・北側に集落、東に墓域が広がり、今回の地点はそれらを分けるために掘られた大溝か、何らかの事情で深い水の流れを造ったものと思われる。

3 二ノ畦遺跡

守山市守山町字北百ヶ町での店舗建築に先立ち、約100㎡を調査しました。これまで弥生時代中期、古墳時代後期の集落跡が確認されていて注目されているところですが、今回の調査では古墳時代後期の竪穴住居2棟とピットが数多くみられました。調査面積が少ないため、竪穴住居の大きさも全体が不明ですが、およそ1辺4mの大きさであろうと考えられます。尚、古墳時代の住居内にも一部弥生土器が混入しており、近くに弥生時代の集落のあることが予想されます。

4 下之郷遺跡

別地点から北へ約100mの地点で、農用倉庫建築に先立ち調査を実施しました。水田耕作土直下から弥生時代中期のピットや土壌が数多く検出され、長さ2m、幅0.6mの楕円形の土壌が10基、円形(径0.6~1m)が8基、その他不整形な土壌が10数基とピット約120ヶが発見されました。これらの中から、石斧2点、石槍1点、石鏃1点などの磨製石器が出土しています。下之郷の集落跡は大きな環濠をもつことで知られていますが、その内側ではまだ竪穴住居が1棟もみつからず、このようなピット、土壌だけが幾つもあって、まだ謎の多い遺跡です。

< 調査中 >

5 下長遺跡

下長遺跡の調査は、4月より初めてはやくも7ヶ月を経ました。9月16日には既に終了した地区についての調査成果の公開として、現地説明会を催し、市民の方々に出土遺構・遺物を見ていただくことができました。その後の調査は、

(1) 調査地の中央を北西に流れる旧河道の西岸の微高地の調査。

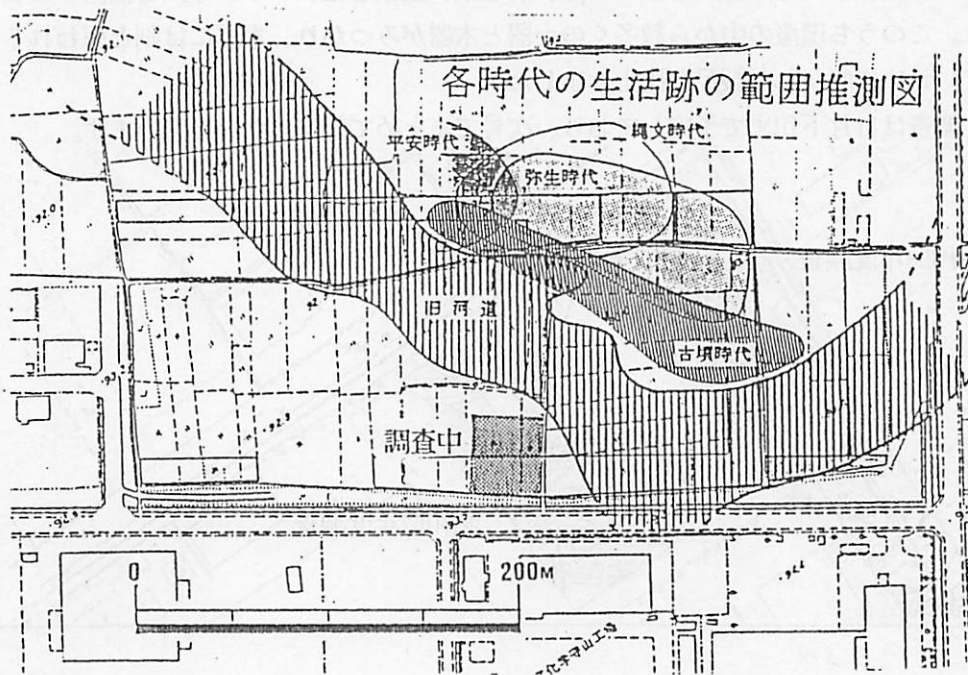
(2) 旧河道域に埋没する水田関連遺構の存在検討。

を中心に進めています。これまでに判ったことは、河道西岸地域には、東岸同様、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての集落が存在し、掘立柱建物を主流にして構成されるかなりの大規模なものであることがわかってきました。また、旧河道調査においては、基本層序の確認と自然環境の検討も行っており、居住域を東西に分断して走る旧河道は、古墳時代前期の段階ですでに流路を変更しており、これ以降は水の勢いも弱くなって河道沿いに湿地が作られていたようです。

旧河道の堆積土からは多量のプラントオパールが検出されていて、古墳時代以降は湿地を利用して水田耕作をしていたことがうかがえます。

今後の調査では、耕作域、居住域、墓域、河道域といった下長遺跡の土地利用のあり方が明らかにされていくことと思います。

(プラントオパールとはイネ科の植物が形成する特有の痕跡遺物のことです。)



6 酒寺遺跡

土地区画整理事業に先立ち、約6000㎡を対象にした今回の調査は、現在、全体の1/3にあたる2000㎡の調査を終えた段階ですが、これまでに弥生時代中期～古墳時代後期に至る集落と墓域から成る遺跡であることがわかりました。

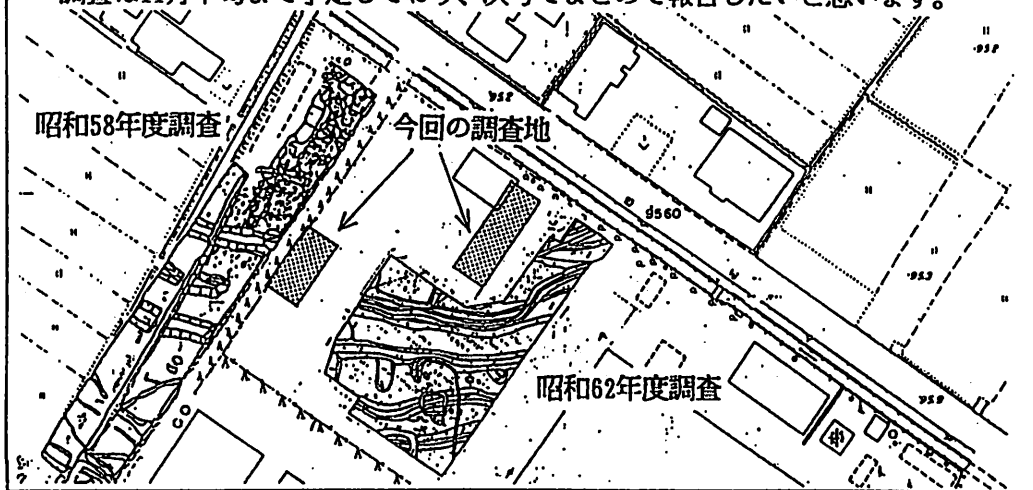
弥生時代後期の竪穴住居は2棟あり、1辺が約5mの方形住居と直径約6mの円形住居で、中からは甕や高杯などが出土しています。

古墳時代前期の竪穴住居は、1辺が5～7mの大きさに4棟見つかりました。このうち3棟には壁ぎわに溝（周壁溝）が巡っています。床面上からは高杯・甕などの古式土師器とガラス小玉、碧玉製の管玉・小玉の完成品が約70点出土しました。県下でも竪穴住居内から玉類が出土する事は極めて珍しく、未製品もないことから考えると、この住居が古墳時代の祭祀にかかわる特別な性格をもつものと思われます。

7 下之郷遺跡

下之郷町字上黒田に所在する三光化学滋賀工場内において、事務所及び従業員控室新築工事に伴う調査を9月27日より実施しています。この下之郷遺跡はこれまでも数次にわたって調査を行っており、弥生時代中期の環濠集落であることがわかっています。今回の調査地である工場内でも昭和62年に工場増設にかかる調査をしており、3条の環濠の他、数条の溝、土壇、方形周溝墓等を検出し、多量の遺物が出土しました。（この調査については「乙貞」36・37号を参照して下さい。）今回の調査面積は約400㎡ですが、2ヶ所の調査区に分かれています。2ヶ所の調査区からは、これまでと同様に3条の環濠、溝3条、土壇3基、ピット4穴を検出しました。このうち環濠の中から数多くの土器と木器がみつき、木器には剣と思われるていねいに磨かれた製品が出土しました。

調査は11月下旬まで予定しており、次号でまとめて報告したいと思います。



ていねいに磨かれた製品が出土しました。

調査は11月下旬まで予定しており、次号でまとめて報告したいと思います。

☆ 文化財講演会の開催 ☆

文化財保護強調月間の事業の一環として、埋文センターでは文化財講演会を下記のとおり開催します。

記

日時 11月11日(土) 14:00~15:30

場所 守山市立埋蔵文化財センター2階会議室

演題 「水中考古学の成果から」

講師 伊庭 功 (滋賀県文化財保護協会 技師)

☆ 現地説明会のお知らせ ☆

酒寺遺跡では、弥生時代中期~古墳時代後期までの遺構、遺物が多数みついています。調査予定地の約3分の1を終了しましたので、中間報告として下記のとおり現地説明会を開催します。多数ご来場下さいますようご案内します。

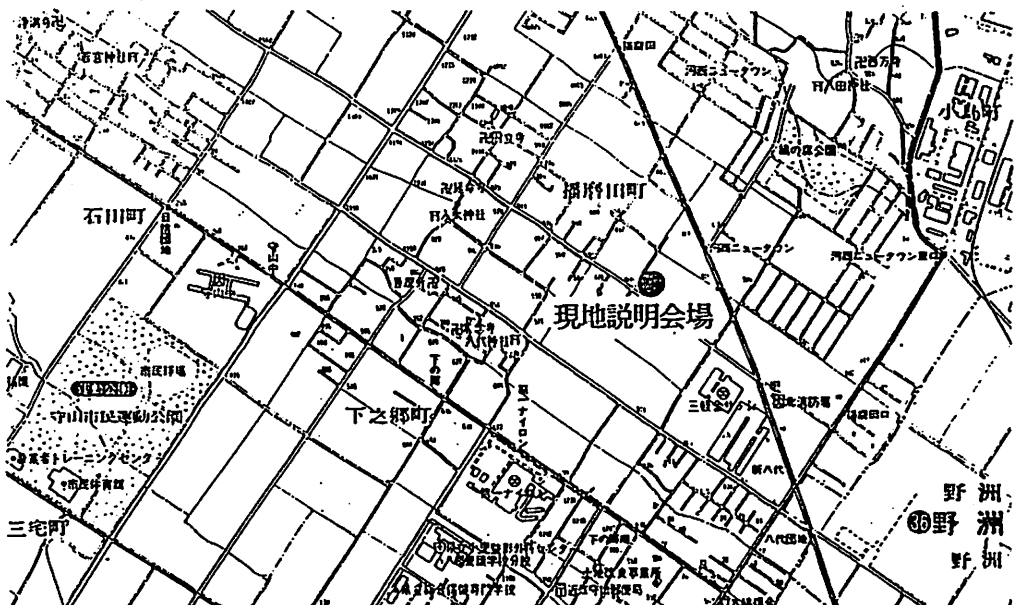
記

日時 11月4日(土) 13:30~

(雨天の場合は5日に順延)

場所 播磨田町地先 下図参照

交通 近江バス木浜線河西ニュータウンバス停下車



文化財保護強調月間期間中の
近隣市町の催し

野洲町

秋季特別展「仏教美術と信仰」－野洲川流域の観音信仰－

期日 11月12日(日)まで 9:00~17:00 有料

(11月4日~7日休館)

場所 野洲町歴史民俗資料館 TEL 87-4410

中主町

中主町文化祭

期日 11月1日~3日 8:30~16:40 無料

場所 中主町公民館 TEL 89-3111

草津市

東海道五十三次と草津－浮世絵の世界－

期日 11月5日(日)まで 9:00~16:30 無料

場所 県立草津文化芸術会館 TEL 64-5815(市教委)

草津の史跡探訪ツアー－ふるさと再発見－

(総鑑出生地と文化財を訪ねて)

期日 11月5日(日) 定員あり

TEL 64-5815

栗東町

栗東町文化財講座

期日 11月14日(火)・21日(火)・28日(火)

19:30~21:00 無料

場所 栗東町中央公民館

栗東町文化財教室 金勝寺・磨刈崖仏を訪ねて

期日 11月26日(日) 8:30 栗東町民体育館集合 有料

栗東町教育委員会 TEL 53-1234

県立埋蔵文化財センター

特別展「石・木・鉄－古代の道具」

期日 11月17日(金)~19日(日) 9:00~16:00 無料

自主学习コーナー(古代の火おこし、ムシロ編み)、ビデオコーナー有り